

Title	癌と人 第35号 目次
Author(s)	
Citation	癌と人. 35
Issue Date	2008-04-15
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/23577
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

◎ 題 字 ◎

財団法人 大阪癌研究会
元理事長 千代賢治



*表紙絵解説

「蟹」のいわれ

蟹の絵は川俣順一大阪大学名誉教授にお願いして描いてもらったものである。

癌に関係ある学会のシンボルマークに蟹の図案化したものがよく用いられている。

癌と蟹の関係の歴史は遠くギリシャ時代にさかのぼる。ギリシャの医聖ヒポクラテス著述のところどころに、今日私どもがいう癌と思われる記録がある。ヒポクラテスはそれを「カルキノス」と呼んでいる。カルキノスというのは日常一般に用いられていた言葉で、蟹のことである。ヒポクラテスが記述しているという病気（癌）の格好が蟹に似ていたのでもそれを呼び名とした。

今日、欧米では日本という癌をカルチノーマと呼んでいる。それはカルキノスという言葉からきたもので、両者は同義語である。

ヒポクラテスはカルキノス（蟹）という日常語を純然たる医学語とした人である。癌と蟹の関係はそれ以来続いている。

・ごあいさつ	1
田口 鐵 男	
・検診を受けましょう !!	2
田口 鐵 男	
・OGSG の取り組み (2007 年)	5
古河 洋	
・細胞周期を制御するサイクリン依存性キナーゼによる乳癌の再発予測	8
金 昇 晋・野口眞三郎	
・無腫瘍性乳頭異常分泌症例の診断 — 分泌液中 C E A 測定キット開発の経緯 —	11
弥生 恵 司	
・電磁波、とくに携帯電話使用により身体障害が生ずるか?	15
岩 永 剛	
・大腸がん検診法はここまで進歩しました — その過去・現在そして将来に向けて —	26
藤田昌英・阪本康夫	
・TAK1 活性制御機構の解明と抗腫瘍免疫増強	31
高江洲 義 一	
・SOCS 遺伝子のサイレンシングによる肝炎および肝癌の発生病機構の解明	32
緒 方 久 修	
・E S C R T 輸送系によるがん細胞悪性化形質制御の研究	34
田 中 伸 幸	
・NKT 細胞免疫治療の樹立にむけた トランスレーショナルリサーチ	35
中 山 俊 憲	
・がん・白血病研究のとびら	37
岡 本 尚	
・受容体型膜蛋白質 CD47 の生理機能とがん	41
村 田 陽 二	
・悪性胸膜中皮腫に対する硼素中性子捕捉療法の可能性	43
鈴 木 実	
・がん抑制遺伝子変異による組織特異的発がん機構の解明	44
中 山 啓 子	
・キメラ分子を標的とする新規治療法の開発	46
中 紀 文	
・家族性乳がん原因遺伝子 BRCA1 のパートナー BRIPI/FANCI 遺伝子欠損細胞の解析から見えてきたこと	47
北 尾 洋 之	
・胃炎、胃癌における免疫細胞の役割	49
吉 田 優	
・小児期特有な軟骨性腫瘍の発症機構の解明に向けて	50
松 尾 勲	
・平成 18 年度事業報告	52
・平成 18 年度収支計算書等	55
・平成 19 年度事業計画書	60
・平成 19 年度収支予算書	61
・平成 19 年度寄付者御芳名	62
・財団法人大阪癌研究会寄附行為	63
・財大阪癌研究会役員・評議員・賛助会員名簿	66